

教育長コラム

子どもによりそい、より深く 理解するために

✍️ プロセスを見取る ～点から線の評価と指導へ～

1年生の教室に『あさがおの観察カード』が掲示してあります。芽が出た様子を絵に表し、「げんきに、めをだしてくれてありがとう」と優しい文字が添えてあります。

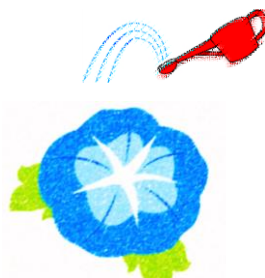
あなたなら、このカードに何とコメントをしますでしょうか？



担任の教師は、「Aさんが、種まきをした日から毎日お水をあげていたね。あさがおは、うれしかったんだね。めがでてよかったね。きれいな花がさくのかたのしみだね。」と大きな花丸と共に、この様にコメントをしていました。

このコメントからは、担任がAさんの様子を、

- 1 種まきの時から継続的に観察し、あさがおとの関わりを褒めていること
- 2 芽が出たことを共に喜んでいること
- 3 花が咲くまで大切に育てようと意欲付けし応援していることが伺えます。



これは、ただ「めがでてよかったね。」と芽が出た時のAさんとあさがおのその時だけの関わりを見取る(点の評価)のではなく、種まきをした日からAさんにより添って、その様子を継続的・共感的に見取った(線の評価)をし、共に発芽を喜び、今後のあさがおとの関わりを更に深く豊かなものにしようとするものです。

コメントについて担任に聞くと、

「特別支援学級の授業を観て、先生が子ども達一人ひとりの様子を継続的・共感的に見取って理解し、指導されている姿勢に感動しました。自分もこんな指導をしたいと思い、子ども達一人ひとりの記録をノートに書き取り(カルテを作り)、プロセスを見取るようにしました。」とのことでした。

私達大人は、子どもがその時に話した言葉やその時の行動だけを捉えて、褒めたり叱ったりすることが多いのですが(点の評価)、実は子どもの言葉や行動には、そこにたどり着くまでのプロセスの中に、色々な思いや願い、考えなどがあって、それらが線としての経過を経て表れるものなのです。

日頃から子どもの言動をよく観て共感的に理解し、点から線の評価と指導を大切にすることが、子どもの自尊感情を育て、自信を持って考え、行動する「社会力(参照第15号・第18号)」の礎を育むことにつながるのだと思います。

小田原市教育委員会教育長

柳下正祐



保護者連絡配信システムが、従来の緊急情報を送信する「フェアキャスト」から、日常のお知らせや欠席連絡を行える「さくら連絡網」に変更されます。



メッセージを送信します！

緊急情報だけでなく、日常のお知らせもメールで送信します。

資料配布がペーパーレスになります！

スマートフォンからいつでも簡単に学校からの配布資料を見ることができます。



教

育

懇

談

会

これからの教育行政に意見を反映させるため、市長や教育長とともに、小田原の教育について語る懇談会を実施しました。よりよい教育に向けて今後力を入れていくことについて伺いました。

01

湯山咲良さん

高校生

自分の体験から、答えは一つではないという多様性を認める環境づくりや、一人ひとりに合ったインクルーシブ教育の充実に力を入れてもらいたい。

02

矢部寛泰さん

大学生

ICTの活用により子どもと向き合う時間が増え、教師の負担軽減にもつながることから、教育サービスを提供している民間企業と連携するなど、教育の官民連携を図ってもらいたい。

03

渡邊ちい子さん

保護者

授業時間の確保と授業の質の向上を図り、少なくとも最低限の基礎学力は公教育の中で身に付けさせるための改善と、豊かな経験機会の増加、意欲を高める力を引き出す取組強化を直ちにしてほしい。

04

岩立 忠さん

教師

これからは今まで以上に、一人ひとりに目を向けた教育の更なる充実を図ることが大事。そのために、積極的なICTの活用や教師が子どもと向き合う時間の確保を進めていく必要がある。

05

南 ひかりさん

幼稚園教諭

子どもの主体性を伸ばしていくには教育者自身が主体性を持つことが大事であり、新しいことに取り組み続ける姿勢を大事にして、自分自身が日々アップデートしていくことが大切！



8月29日開催

おだわらイノベーションラボにて